日本比較文化学会中部支部第６回大会案内

Ⅰ．大会日程　　2014 年 9 月 21 日（日）

Ⅱ．大会テーマ　　比較文化と学術的伝統

Ⅲ．大会スケジュール　　13:00～16:45　　（※敬称略）

・12:30～　受付

・12:55～　開会の挨拶　　中部支部長：澤田 敬人

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

総合司会：白鳥 絢也（星槎大学）

【第 1 部】（13:00～15:00）

〇自由研究発表　（一人発表 20 分＋質疑応答 10 分）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

【第 2 部】（15:10～16:40）

〇討論会（ラウンドテーブル）

「比較文化と学術的伝統」

コーディネーター：川口 雅也（浜松学院大学）

パネリスト：澤田 敬人（静岡県立大学）

同：津村 公博（浜松学院大学）

同：岡本 武昭（前日本比較文化学会中部支部長）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

〇閉会挨拶（16:40～16:45）

安藤 雅之（常葉大学）

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

〇懇親会（17:30 頃～）

【場　所】ホテルクラウンパレス浜松 1F　バイキングレストラン『ベルファサード』

〈http://www.crownpalais.jp/hamamatsu/rest_b.html〉　Tel. 053-452-8618

（費　用）バイキング（食べ放題）お一人　2,700 円（税込）

（飲み放題）お一人　1,600 円（税込）　※こちらは任意

Ⅳ. 会　場

浜松学院大学（布橋キャンパス）　1 号館 1101 教室
〒432-8012　静岡県浜松市中区布橋三丁目 2-3　／　Tel. 053-450-7000

※交通アクセス：〈http://www.hgu.ac.jp/univ_hp/guide/access.html〉より転載

○浜松駅（JR・静岡鉄道）から大学までの
アクセス　【遠鉄バス】（所要時間約 13 分）

<u>JR 浜松駅北口バスターミナル 1 番ポール</u>発車のいずれかのバス

［30］舘山寺線（舘山寺　村櫛方面行）　「浜松学院大」下車［片道 190 円］
［36］ゆう・おおひとみ　ひとみヶ丘線　「浜松学院大」下車［片道 190 円］
［37］神ヶ谷　山崎線　「浜松学院大」下車［片道 190 円］

自由研究発表

1 号館 1101 教室　（13:00～15:00）

司会：安藤 雅之（常葉大学）・白鳥 絢也（星槎大学）

13:00～13:30

「学際的かつ比較文化的な建築様式研究の難しさ
－フンデルトヴァッサー・安藤忠雄の建築から読み解く」

野口 司（東京大学宇宙線研究所重力波推進室 学術支援専門職員）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

13:30～14:00

「生き抜く力を育成する伝統・文化教育の推進に関する考察
～カンボジアと東京都の取り組みを視座にして～」

大矢 隆二（常葉大学）・安藤 雅之（常葉大学）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

14:00～14:30

「心的辞書と言語処理方略の発達過程－日英語バイリンガル児の事例から」

杉本 貴代（常葉大学）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

14:30～15:00

「『ボヴァリー夫人』における母親としてのエンマ」

水町 いおり（名古屋市立大学研究員／愛知産業大学非常勤講師）

※発表時間は、研究発表 1 件につき 30 分です。（うち発表 20 分、質疑応答 10 分）

研究発表要旨

①野口 司（東京大学宇宙線研究所重力波推進室 学術支援専門職員）

「学際的かつ比較文化的な建築様式研究の難しさ
－フンデルトヴァッサー・安藤忠雄の建築から読み解く」

芸術的な建築を建築学の視座のみで解き明かすのは困難である。2010年以降，哲学や美学，環境倫理などの見地から検討を試みたが，更に視野を広げる必要があると考えられる。そこで，以前取り上げたフンデルトヴァッサー・安藤忠雄の建築様式比較を例にどのような困難さ・打開策を取りうるのか考察したい。

②大矢 隆二（常葉大学）・安藤 雅之（常葉大学）

「生き抜く力を育成する伝統・文化教育の推進に関する考察
～カンボジアと東京都の取り組みを視座にして～」

21 世紀を生き抜く力としてアイデンティティの形成は重要な基盤となる。カンボジアと東京都の取り組みをもとにこれからの伝統・文化教育の在り方を提案する。

③杉本 貴代（常葉大学）

「心的辞書と言語処理方略の発達過程－日英語バイリンガル児の事例から」

幼児は自ら利用可能な情報を用いて言語処理方略を発達変化させ、成人に近づいていくことが先行研究で示されている。本研究では、日英バイリンガル児の言語発達と連濁の獲得過程の関連について検討したので報告する。

④水町 いおり（名古屋市立大学研究員／愛知産業大学非常勤講師）

「『ボヴァリー夫人』における母親としてのエンマ」

現在までの『ボヴァリー夫人』研究によって、主人公エンマの多様な姿、すなわち、夢みがちな女、ふしだらな不貞の女、規範を逸脱する女、満たされない女（ボヴァリズム）などが明らかになっている。そこで、本発表では、母親としてのエンマの姿を抽出し、今まで見過ごされてきたエンマの「母」としての側面を明らかにすることにより、『ボヴァリー夫人』の新しい読み方を提案したい。

討論会（ラウンドテーブル）

【テーマ：「比較文化と学術的伝統」】

1 号館 1101 教室　（15:10～16:45）

コーディネーター：川口 雅也（浜松学院大学）

パネリスト①

澤田 敬人（静岡県立大学）　**「競い合う学問：地域研究と比較文学」**

同じ地域を対象にする研究が複数ある場合、研究者どうしフィールドでニアミスになることもあるし、競い合うこともある。地域研究と比較文学のニアミスを論じる中で比較文化の可能性を探りたい。

パネリスト②

津村 公博（浜松学院大学）　**「比較文化論的アプローチへの疑問」**

ある文化を理解する時に、異なる文化を比較の基点として、二項対立による分類や用語に頼るアプローチを用いられるが、文化の多様化や文化変容の中で、この比較文化論的アプローチに疑問を感じる時が多い。この疑問を追究したい。

パネリスト③

岡本 武昭（前中部支部長）　**「研究領域の拡大と比較文化」**

例えば、経営学の研究領域でみてみると、成立当初は生産論が中心であったが、研究対象の企業を取り巻く社会・経済環境の進展・変化に伴い領域は販売、心理、文化へと領域が拡大してきた。他の学問領域でどうか、検討したい。

※パネリストからの話題提供と、参加者による質疑応答等のフリーディスカッションです。比較的長い時間、じっくりと、しかも同じテーブルについて同じ目線に立って、話し合いをします。参加者の皆さんが、興味関心を持った話題についてテーブルにつくことから、この討論会（ラウンドテーブル）は始まります。